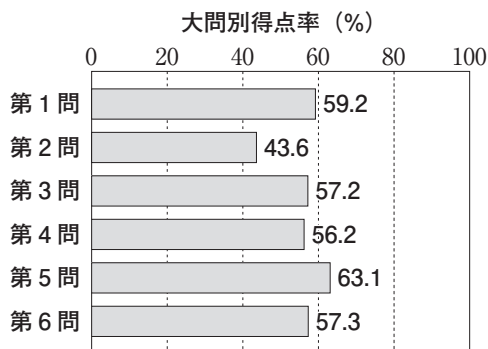
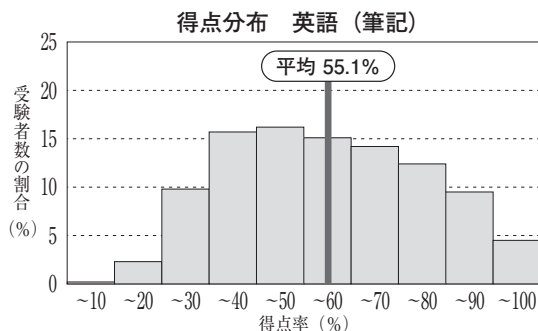


## 英語 (筆記)

## 文法分野に弱点がないか再度点検しよう。

## I. 全体講評

今回のセンター試験本番レベル模試の平均点は110.2点であった。毎回のことであるが、最も大切なのは、各自が結果を見て、それを今後の学習に生かすことである。これから受験の準備期間も後半に入るわけであるが、受験生に共通する課題の1つとして語彙力の強化は依然として重要になるだろう。同時に英語力のもう1つの柱である文法の知識も整理しなければならない。今回の場合、第2問のみが得点率で50%を下回っていた。文法面での不安がないか、各自でチェックしてほしい。また、第6問では無回答率が依然として高めである。最後の方は時間的な余裕を失っていたということであろう。これは速読即答の能力を反映し、さらには語彙力に関係している。問題解消のためには不断の努力が欠かせない。なるべく多くの英文を読みながら、レベルアップを目指してほしい。



## II. 大問別分析

## 第1問 発音・アクセント

## アクセントの傾向を意識して音読しよう！

今回の第1問の得点率は59.2%で、平均的な出来であった。内訳を見ると、Aの発音問題が平均で61.6%、Bのアクセント問題が57.4%と、大きな差は見られなかった。Bでは問4が唯一正答率50%を下回っていた。ここは4音節の単語のアクセントを問うものであり、音節数が多いために難しく考えられがちであるが、実際には語尾の形とアクセントの位置に関する傾向がヒントになるものがある。今回の問題で言えば、正解の④の語尾が-ing (アクセントは原形と同じ)、選択率が30%を超えた②の語尾が-ate (通常2つ前の音節にアクセント)で、このような傾向を知っていれば正解を絞り込む助けとなったと思われる。日頃からこのような傾向を意識して音読をしてみるとよいであろう。

## 第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

## 難しかった整序作文と応答文完成

今回の第2問の得点率は43.6%で、すべての大問の中で最も低かった。内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が54.6%、Bの整序問題が33.5%、Cの応答文完成問題が35.4%だった。今回に限ってはB、Cの不振が全体成績に大きく響いた格好である。Aにも正答率が20%に満たない小問があったが、それは前置詞の用法に関する問2である。しかし、配点の大きさからすると、やはりB、Cでの失点が痛い。いずれも文の組み立て方が問われているので、文法力が成否の鍵を握る。こうして見ると、まだまだ文法分野に不安を抱える人が多いようだ。間違えた箇所については、解説を参照しながら関連項目の徹底復習をしてほしい。

## 第3問 文脈把握(対話文空所補充・文削除・要約)

## 全体的な文の流れを確認しよう！

今回の第3問の得点率は57.2%で、やはり平均的な成績だった。内訳を見ると、Aの会話問題が

55.6%、不要文削除のBが53.3%、意見の要旨を選ぶCは61.2%だった。Cの出来が比較的良かったわけだが、総じて安定していた。小問別の正答率を見ても、Bの問1が30%台だった以外は、いずれも50%台から60%台の範囲内で、得点バランスも良かった。Bの解答にあたっては、不要と思われる文を外してから、再度全体の流れを確認するように心がけたい。どのパートについても、間違えた箇所があれば、各自で解説を参照しながら見直してほしい。

#### 第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り 設問文と本文の該当箇所をしっかりと照合しよう！

今回の第4問の得点率は56.2%で、これも標準的な成績であった。図表を含む説明文を素材としたAについては、平均が60.4%、広告文書を素材としたBは50.5%で、正答率が約40%の小問がA、Bともに1つずつあった。どちらの箇所も、図表や数値に関する問題ではなく、オーソドックスな内容一致問題であった。このような設問ではそれぞれの選択肢と本文の該当箇所を、言い換えられた表現に注意しながら、きちんと照合することが第一である。間違えた問題については、よく見直して、つまづいた原因を突き詰めておこう。

#### 第5問 物語文の読解

##### この調子でさらに高得点を狙おう！

今回の第5問の得点率は63.1%で、大問別では最も高かった。小問別正答率も50%台半ばから70%程度までと非常に安定していた。ストーリー全体のテーマを問う設問も過半数の人はうまく切り抜けた。特別読みにくいストーリーではないので、じっくり取り組むことができれば、おそらくさらに上の結果を期待できたであろう。いつものことだが、このあたりから無回答率が徐々に高くなっていく。終盤に至るまでの過程でいかに効率よく解答できたかが問われることになるだろう。今後も時間のロスを防ぎながら、この大問をより確実な得点源にしてもらいたい。

#### 第6問 説明的文章の読解

##### 時間配分を考えて全問解答を目指そう！

今回の第6問の得点率は57.3%で、やはり平均値に近かった。この大問としては悪くなかったと言

えるだろう。小問別正答率を見ると、40%台、50%台、70%台がそれぞれ2問ずつあった。後半の方がやや成績が落ちていた。当然ながら、この大問では時間的制約の影響が最も大きい。無回答率も他の大問に比べると高くなっている。これまでも述べたように、まだこの段階では全問を解くだけのスピードが身につけていない人が多いが、時間的な余裕さえあれば、決して難しい問題ではない。今後さらに効率のよい解き方を身につけて、この最後の大問でも得点を伸ばしていくことが期待される。

### Ⅲ. 学習アドバイス

今回は第5問について述べておこう。センター試験の第5問では、以前の2つの主観的な文章を素材とする内容一致問題から、昨年来1つの長い物語文に基づいた問題へと変更された。しかし、文章スタイルや設問形式はこれまでと本質的に変わりがなく、説明文の場合とは違って、ストーリー性や主観性に重点を置いた英文に慣れ親しんでおくことは今後も重要であろう。このような文を読む際に必要なのは、まずストーリーの展開を時間系列に沿って正しく把握することである。物語は必ずしも時間的に順を追って記述されるわけではない。現在の状況と回想の場面が入り交じるからである。また、当然ながら、物語の筋を的確に読み取り、設問に正しく答えるためには、出来事とその原因や背景、人物の性格や行動とその理由などの総合的な把握も重要な鍵となる。ストーリー性のある文章を読む際には、常にこうしたことを念頭に置くべきであろう。もう1つ触れておきたいのは文章の長さである。今年のセンター試験の場合、第5問の本文は1つの長文素材としては第6問を超えて最も語数が多かった。これに対処するには、やはり語彙力を充実させるとともに、この種の英文に十分慣れていることが求められる。決して内容的に難しいわけではないので、ここでも「習うより慣れろ」の鉄則があてはまるだろう。